

-Current Issues and Expectations in Public Health Graduate Education- -公衆衛生大学院教育の現状と展望-

高齢社会の急速な進行と疾病構造の変化、増大する国民医療費、健康と疾病に対する国民の多様化する価値観、国際化社会における新興・再興感染症など、医療・保健・福祉を取り巻く環境は様々な問題を抱えています。これらの問題を解決するためには、これまでの生物医学的アプローチとは異なる視点、「社会における人間の健康と幸福の追求」という公衆衛生学的アプローチが必要であると考えます。聖路加国際大学は、国内外における医療・保健・福祉の諸問題の解決にリーダーシップを発揮する人材を育成するため、2017年4月に公衆衛生大学院を開設する準備を進めています。今回のシンポジウムでは聖路加の公衆衛生大学院が目指す教育についてご紹介するとともに、公衆衛生に関する最近の話題を、有識者の皆様とともに検討致します。

シンポジウムの講師としてジョンスホプキンス大学、米国公衆衛生教育協会（Council on Education for Public Health）、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）から計3名を招き、公衆衛生学における教育者の視点、認証機関の視点、実際に公衆衛生学位（MPH）を取得し、第一線で活躍している実務者の各視点から、公衆衛生大学院の現状と展望について考察します。

多くの方々のご参加をお待ち申し上げております。

聖路加国際大学学長 福井 次矢

記

開催日：平成28（2016）年10月22日（土）

13：00～17：00（受付開始 12：00）

会場：大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター B1F 日野原ホール

定員：250名

参加費：無料

主催：聖路加国際大学 臨床疫学センター／公衆衛生大学院設置準備室

問合せ：〒104-0045 東京都中央区築地3-6-2

電話：03-5550-4101 FAX：03-5550-4114

E-mail：sllsi@luke.ac.jp URL：<https://cce.luke.ac.jp/> ←オンライン申し込み

Landing Page：<http://university.luke.ac.jp/sph/>

ご注意：駐車場（有料）はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

クロークはございません。大きな荷物のお持込みはご遠慮下さい。



●会場●

〒104-0045 東京都中央区築地3-6-2
大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター B1F
日野原ホール

◆最寄駅◆

○東京メトロ日比谷線 築地駅3・4番出口 徒歩3分
○東京メトロ有楽町線 新富町駅6番出口 徒歩5分

13:05-13:10 開会の挨拶

福井 次矢（聖路加国際大学学長、聖路加国際病院院長）

13:10-13:40 講演1

日本における公衆衛生学の展望について（仮）



福井 次矢（聖路加国際大学学長、聖路加国際病院院長）

1976年京都大学医学部卒。聖路加国際病院にて研修。1984年ハーバード大学公衆衛生大学院修了。帰国後、国立病院医療センター（現・国立国際医療研究センター）循環器科、佐賀医科大学総合診療部教授、京都大学医学部附属病院総合診療部教授、京都大学大学院医学研究科臨床疫学教授を歴任し、2005年から聖路加国際病院院長、2016年から聖路加国際大学学長。京都大学名誉教授。

13:40-14:35 講演2

Integrating Public Health and Clinical Medicine: Healing the Schism



ロバート・ローレンス（Dr. Robert S. Lawrence・ジョンズホプキンスブルームバーグ公衆衛生大学院名誉教授、ジョンズホプキンス大学医学部内科学教授）

ハーバード大学医学大学院卒業後、マサチューセッツ総合病院の研修を経て、疾病対策センターでの疫学情報官やノースカロライナ大学チャペルヒル校での地域医療サービスプロジェクトの臨床責任者、ロックフェラー財団の保健科学部門のディレクターとしてアジア、アフリカ、ラテンアメリカの健康向上に貢献するなど、多岐に渡る経験を持つ。1995年から2006年までジョンズホプキンスブルームバーグ公衆衛生大学院の副研究科長を務める。現在、全米科学アカデミーのメンバー、米国内科医師会のマスター会員、“Physicians for Human Rights”の創立メンバーとして活躍している。

14:35-15:30 講演3

Framing the Future: How 21st century Public Health Education will Empower Global Health



ドナ・ピーターセン（Dr. Donna J. Petersen、Council on Education for Public Health プレジデント、サウスフロリダ大学公衆衛生学学部長）

ジョンズホプキンス公衆衛生大学院で母子保健学の修士及び博士号を取得。ミネソタ州保健省及びアラバマ大学バーミングハム公衆衛生大学院において指導的立場を務め、論文発表や講演のみでなく、技術支援、ニーズ評価やプログラム評価、システム開発及びリーダーシップに関する研修を行う。また、母子保健ジャーナルの名誉編集者及び全米公衆衛生学試験官など多岐に渡って活躍している。2011年にジョンズホプキンス大学の優等卒業生として選出された。

15:45-16:40 講演4

公衆衛生大学院修了者の活躍について（仮）



B.T. スリングスピー（Dr. BT SLINGSBY、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金CEO）

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金CEO。以前、エーザイ株式会社で開発途上国における製品開発やマーケットアクセスのためのビジネスモデルを構築するグローバルリードを務めた。また、日米両国にて多数のスタートアップの設立にも携わり、米国医学研究所の官民パートナーシップフォーラムのメンバーでもある。これまでに日米の医学・公衆衛生雑誌に50以上の論文を投稿しており、現在は東京大学大学院および京都大学大学院の医学系研究科にて特別リサーチフェロー。ブラウン大学を卒業後、京都大学大学院医学研究科にて公衆衛生学修士号、東京大学大学院医学研究科で博士号を取得。ジョージ・ワシントン大学医学部より医師免許取得。また、米国ワールド・カップ・チームのトライアスロン選手として活躍した経験も持つ。

16:40-17:00 閉会の挨拶



遠藤 弘良（聖路加国際大学 公衆衛生大学院設置準備室長・臨床疫学センター教授）

1980年千葉大学医学部卒業。東京女子医科大学において臨床研修。1982年に厚生省入省。1984年ハーバード大学公衆衛生大学院修了、医事課、国際課、結核感染症課等に勤務、海外ではWHO西太平洋地域事務局（予防接種対策）、WHO本部（人材育成、熱帯病対策）、国連エイズ合同計画（UNAIDS）に出向。2009年に厚生労働省を退職。東京女子医科大学国際環境・熱帯医学講座 教授を経て、現職。

※同時通訳をご用意しております。※プログラムは変更する場合がございます。予めご了承ください。

お申し込み方法

本学ホームページ（<https://cce.luke.ac.jp/>）からオンラインでお申込みいただくか、申込用紙に必要事項をご記入の上、E-mail、FAXにてお申込みください。受付登録完了後、「参加証」をお送りいたします。